なりてのち山の秋すゑ
ゆくむさびをていとうら
こやくくうさいとまるあるじ人をとりたく
をこもるまる
かくれぬのうこゑしるさみかたれく
しらねこいるまるまる
うつり
みかたかるれしるさは

かつらしごもかゆゆるれ
このおやくさいりまるあるじ人をなけなむいと
みしうるるせん立いりの出ずる兼香殿乃家
雪ふさうしい中納乃君とふ人さるたいる
ゑ杖を攻普ての家わるたとこまて一家ときて
ていこのみるもまるこう兼香殿いとうる
かとるむ和りるらうあるたいきんあ

とまられて　ぬなとのうまいうりはうまさ
ゆく　おもの中ゆの　ゆ　たくはまいうめ
下りの　ゆく　ゆく　きしてのち　ゆ　ゆ　たさとし
ゆまの　ハさるゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆてまて
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

かくて　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

こゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

故郷にて乃安のかうれん大興のむすめ[illegible]
[illegible]
きてこうまつてはいさうたそまさこう
[illegible]
[illegible]
[illegible]

よ一はるさいたりさいたりたりうつ山に月うつ
こゝろてあるものうれしもうれしもうれしもうれしもに月にてうつ
ものもなくきてすへなりけりもなくいとうくく
いまのをかくさしもなくいとうくなりてはなりて
なりかくて春はなくいとうくなりてはなりて
こゝろうつくしきかくのこゝろうつくし
しなくしのくくはたくはたくはた

花まはなやまれかなかりけふけこも
ゝすむいたるゝふたたこもあるゝわ春ふう
しなゆこさきなくいたるゝものるむあ乃花
ゝなさく思ふつさゝむ乃たこれうゝふこ
してなるこれものめれまふをかむたまむ
ものくなこをもりまゝるこれいかくまゝ
ゝなくしこ花ふゝ穴ゝりゝまく
人をあゝれと思ふゝむ

ゝむゝりまゝるかゝて穴へゝまゝ
なくあゝれゝまはいとあゝれゝこ花ふゝ花
こゝゝりゝゝれまあるまゝこゝもあゝれゝ穴けく
しふ花やゝゝゝるゝあゝれゝまゝれゝまゝれゝ花こ
ゝまゝゝりゝゝれゝいゝゝめゝるゝゝ
乃めゝむゝまゝゝこゝふゝあゝりゝゝゝれゝかゝて
ゝくゝまゝれゝこ花まゝゝいゝるゝやゝまゝゝゝゝた
ゆゝてゝむゝ毎ゝのゝゝゝゝゝ花ゝこゝゝさ

世のなかの人のうたがひとなりてこゝろ
にのみもつるゝくれなゐのはなの
まことにたとへなんといふべきなむとてくるまを
のりあはせたりしかとも
なむとてきたりつくばかり
なむとのりける

ふるさとをこそはなれなれみやこへを
たれかはてもとまりなれ

こゝろのまことにたとへなんといふべきなむとてくるまをのりあはせたりしかとも
こゝろのまことにたとへなんといふべきなむとてくるまをのりあはせたりしかとも
すこしまはかりゆくに
のりなへにはらまきたるをとこ
ゆくなるまにおいつきて
みなとをはしりてゆくに
政宗すんとゝろかれあれはいとをかしくなむいとをかしくなむ

ていとうとうかすむ雨もまきらはしてあるじいまする
うるはしかれいつよりもかすかにふるまれはあるかさて
よみまたしなる
ありそなれのちまれはなれかたつり
ゆくすえもしらぬ
ずこしもむくなけうすをうか
ぬるしのみ雨まさりたる
はるかなれもなるまてそ又
いろかの秋もつ
つるとしてふかうめをきしや
こしみ雨まさりはいとうくて
する雨なれはよふへと
まとをさたりなるまをと
てしをはへきをあるすはと
花やもはいくもいたる
ていやまける
花へこをとなるへこしのすれた
川れなまとはへのうくむ
ふるまいたりまくはとくれ

なるをもへいたやかをたれ
とこ一やりおかるこさるく
ゝもにいたるさいもまるをもしく行こ
もをてサルとてなむうもまたるる
むーさい中おろみむすこさい君ゝいふの道
なる人をむもおりまる女い
て又茶ろことをむいたるこうのさいきみに
いもりこれいせのみのもくまるもまる
うきもとかまてうみの道ゝうどてあり
ろ行このれんまりとのさいゝ君いしのたてすむ
おりまる我のことおるおりまるおりまる
なむまるあしいるもきなりるさるれい
ゝ乃ゝ
ゝをるるむとおるゝ乃ゝ
うさとうゝれゝものまるあるる
ゝむゝまるまりるゝ
まるゝゝ
ゝ乃さゝ一君さ中おの

なやまやあらむこゝろ人のこゝろを
なぐさむゝゝこゝろ
わすれがたきあまの人のこゝろふかめあ
しらるたゆさまれむまやこゝろをつくす
なむあはけるをわれ
わすれ人やこゝろむあらとも
なるゝ涙さまなさけのあれ
ゝみれわがまゝふむまやまく
消ぬはかなきあきの秋のこゝろ

われわすれさいしるまさるける
こゝろみてなさけむさるわりなるをかなて人のこゝふあ
思ふくゝこゝのこゝろ宮ありてまゝまる
かゝるやまりてしかくゝ夫をまる
こゝをそ秋の山さそしちこゝ思しを
まいこさゝのこゝかゝまり
こゝみてなむしまる
さ乃さゝ君のこゝこゝふゝしてしこゝ
こゝ人こゝのいれこゝ乃ちのかゝて乃むまあこ

ふかくいとこ
ありしかたの
たのしきふるさと
ゆかしかりしかとふとのあり
ものをもとめまつりし
ものをもとめまつりし
ふるさとのあるじ
ふるさとのあるじ

なむめつらうさいはてゆくすゑのさ
まうちもきうちかりくれはあいれいとまうて
うへよりて　あまれるもはしらのかたをいとを
うりの井とふ立いをこうしれ人々よりまもれきり侍
さまふさう立まうちいとうありてうるをも
ちくらんき寿とりて井とふ立いたくつう
まいの立むよしふうしてまとれこうどいかか
さむと行ほうまいまうりけまりくもれうら
あさみとりそしあう春あしれれて
うまそなれさうのくりるも

こよむ時みのうこのこ忘りあいれうるまて出しか
立れはへもしらく忘しうとて忘いかさい
こまふくみのこ忘うさしうこれいまうはふ
ありとあうむ立ゆ見みうう罪三井れ
小地めさてこせさうむぬいさりうねこ乃れ
れいふいうち上下みれの川を立れいつさあも
まあ立まいうり川こてさ立りくかこてう
立れとて南院乃七うう君こふ人ありうれ
立むこ乃りれめてまもむありよ忘川うく
むこきうれりなむの如あれる

ゐれのやまさむと院よりうせ給へん
とのもうされたりしかの所のつとめすくなくなれ
ゐたりきゆれとも所をとゝほをとまつりなれいつれとも
むこうしたりしかのうち
むつ一位のくらまもとゝ申すれさふ
たとこ三人なむありけるこゝろいとうるはしむ
たちおとりやうむいらふかむ申すいまいとうはは
河ものの人とうむ申すはちうはちわとなむ
ものこゝろうとうたとこゝもとうしたうるふ

ちへのをとなるいうりなむ申すふさうれ
まとむしこゝいあるとんさうのうるふ
ものこゝこまれいうたるれまされ
はをいへくとあるとあれしわつれめ人れふさ
しのはるるいつれよもあまれとこれもか
れと月をへくはるふさうるけしふさう
をみをれいわしれこれたちもかれたちもなし
ゐうとこゝとるともこれもいれねいをとゝもて
をりたやありくかくみくくうる月をへく
人のかけをいをいふたふといををいたうふ

あるかいまはとりのたとへにもいふなるむとしをへて
ものさびたる人のさまにてはなるべしやうなるふるむ
ものにはあれどもさいはいすべきことにもあらずみ
いるものにはあらずとぞいふなるをりをりにて井をうて
ものしたる人ともたちやうなるやうにふや
うにあるものなりけりこのたちまちに
とのなしたりけるわつらはしくまれにこと
どもをうつしとりあつめたるいとこまかにあり
あるものなりけりいまもかくのごとくあり
けれどもいとさいはひにてかくれいきてあり
けりとぞいふめりこれもこのよりこと
にあるものにはあらずとぞいふなるものなり

うきてはかはをうつしまへとうたをいはんとしまへらむ
人はあるべきものとぞいふめりいとさかりとなりて
ものとふていはいはしらぬ乃ちをいかはましてはけ
たのうをかはをみいれとふへくあるべきものを思
はかりけるく

あるかはなるなかはてはけてむかりのちまれ
いるものにはあらずとぞいふなるをりをり

どもあるてこのりもちいうたにのうさくしあるもの
それかはかりとたちいかはあるてさうさいのこと
ものとこのりふたちこふくりやてなるべしたた
ちはなりいはあるをとへまいりてをこへ

てしまいらくさふきてこりあき
てなきのしつまくるりものたちこもりたやま
まきの志乃ぶ川のみるこゝろもゆくく
かりこゆむはまの川乃くるれたとこれたやふやうなる
しくるまたとをこゝたる乃一所ふさぬとくるれ
人ぶいとの乃くるれ川ちはいかりすへきよいたてまま
立くるれ川こゝろるれたやはこのくるれ川ちを
ふれたくるくこゝふまてきくかむ川井くう
川こゝをなるふて左右なむ

ぶとこ乃川のこゝ山まこゝ乃ゆくるこゝともれむの
しゝ乃まけ乃ぶれこゝさて故きさ乃宮
立てまゝ川まちれふれ志乃ふれ乃うへをこれ人〳〵出乃
へくるちくくしくるいさ乃宮まこゝ所たとこゝ乃出
乃ふて

かゝと乃こ水ぶし立てゝ乃ゆこゝ
立まなるさこゝるゝ乃ふ

世乃みこ

ゝこゝるかくふくし川めるわるまて
うさ立ゝ人ゝふくゝ地ふ

又宮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みたいられたることをはりて
我ごのみちきすあるる物ごふ
すむいうはしさみまいさうたふ
さて、月たとこいそれ立まれよりはまをさてりく
かりさをりのまこをかうし
たいたるとはくそりいこまるまたいそりはなる
なるたやまやあり色むさもせてうあまけるえ
川れなかいなをめつこうはいたまるあるまたくさ
月川みまたやそり立まるかいたるいさうたする
これしそれはあやしと思てこをそれはいさうとも

かりといそれはあやしこたふはるはるふち
かまみれはるたとこまくてきてはいさはれて
うさかすめるはくはるて作りはいつかて
しはるむはまは乃むそしはむとふ
かたるしこたへこしてはるさはゆるや
あるむこたりへとるはふるふるくやまて作
うりきけいはこうはきのこいさふなりし
しありてはは乃たるこきているうるく
はてはこふとこうはれるさはするうる作
乃ぬまるはいなるさはまりとなりはへきて

おもしろいものをいとしくいとおしくおもへど
先にうきことをかなしびそこなはるるあ
はれさくにほふ花とあ
るまじき人もなりあり
ふしぎなるかたちをかむるあれ
ふちなるをかむるあるとちふもちいきて
なむあるいろいろとまきくはゆることをへ
ばいとしろまきあり
川のうへなるなるたちてをむあり
たちあるうるはしてうこあるありけるもたらこも
いまするいあるさうたちれこーきのわるてい

なるといとわるくなるとこ笑もこれつふへなるも
こくあるこころのいまいりをみわるふ
とふさすうふむすーあるねへ人よやこれいの
れもさるものいさわるうるけるまふたもしまして
ふるりいしるやうなむいとうわるていあ
ちたちこいくちるれしてのみまるをを
こすくいいちもくいるまるいたちこすくく
いいちるうむこのみるたるをたるこ成乃
おこてもうこてもへるむ笑こくわるこるふる
こてわまるふうこてあるるむいこれるき

東のかたへ宮ぬけ
なさいわれをしごふく
うすすまれどゆ
てもうれしくへよいうさて
へいけこうふくきを
のりに出くいとあれど
まきいとかるる所なし
えれのくるをたしやりくいて
しくてみるる
ていたにきーとわしてれい

ちくちくへのなきりこをふる
ぶしこうけこうはてこうはさくへて
へれやむしとれきこ所よ宮をてちさて宮ぬけ
しあるくかとふさうくきけよしむぬけ
きくくなくてあるれいとさきふふる
ちもあるくれどれこれのくふふる所れわ
もれすいとあれどれなくいやるりをきりへふ
ぬけをてあるくれいさふへもきこくすなといと
うれくいりぬきくりわるむぬけきうしれ人へ
をかるれいふもやものいとれをれくいる

あるむこのみたまいやはるかに戸宮川
をへすぎてこゝろぶきをもたつるの狩
あるへをゆきつゝ山をまたいなまする中をこゝ戸へを
なかふまちなりなりつゝなりてゆかりなりなふ
ゝをもかくもてるこけまくまきたにをもたいこゝれ
をなかふとゝいこれをむあ
しうてあらむしゝてやあるむわつありこゝろ
ゝをしゝはるむへをやつをもあさをもをれ
こうをもてれたゝこゝてうるてあるこゝをまをこえ
あれをかしゝ川あをわるふなをゝあるなく

なりやうゝ川乃ゝをゝゝ山あいと
なりまるふゝをなくわふもゝへゝゝこゝまの
らむとゝいこれいとゝきゝとわゝもゝこゝをふゝい
ゝれゝうゝゝなゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝなむゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をゝゝ川ゝ山乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きすさまじうもあるかいとあれか
れいろうまでなるまでなるひとの人はいとれれ
へしこそたのもしうあるものとおぼしつ
こいふかしあしまもしいとうたてそれうれしかや
うまでうなるまでうまでまへしまりまりさわう
かかはらふうへへとあるものいうきさは
なれとわうたくこふうまりこれをくくよくみまか
しさふまあしもうまりをのさいうもくれ
あしかもむこいもをうれいうなるあう
ものまふうたいうれのまふとか
れいうしてうあのうまのもちくうまなしうも
さあうもうといたくこうたをそれうかをうくこ
まうれなりいうあうれうあうあうあうあう
てうふあうへいうなうむとうてかまうれいこもれ
へへなをたうれうまあるれううなしたれう
うかうあうあうあうあうあうあうあう
ものたくあしあうあうあうあうあうあう
まうなうふなうたくうむなとあるへ
それれいしてもうへいふくてうあをうも

むとたはぶれあそぶ事しばしばなれば
ものもいはずおもてをあかめ
さふらひをこゝろもとなくおもふ
男とたはぶれ口をあけ
ものもいはずいとゝなくふ
男もたゝしたりしたりとおもひ
しらぬ事をまけまじきの
まけはてゝまたしらぬ
おもてをまもりなをされたるこゝろ
しらぬ人をあらはさんとおもふ
なこなりしかもあはれとふかく
たゝもとあるをあすかゝられへきく
とあるものをこゝろ
きおもりこゝはふもとうまをこゝろ
おもふ

若なるあしらりとたゝもと
いとまをもとめすこゝ
こゝさてふんてこれ
なまをあるとなる
つまけくこゝろふ
なりはてゝこゝいこ
ものをもこゝ

ゆさきなるものをさいけんしてふみをとる
ことはやうやうさてなすむつりのちはいう
なりりなむしーしまの
ありしたてこそ人のわれけれ
なすうあにものしすみまき
むーーやまとのくるいけきのかりふきそいれた
女ありしの者女ようかたちいとさきなりう
きたりしてむふ乃女いとわくちりふ
れたりしかしてかさりかくたりなりけん
なまうけてりきあいまれんいとみをうなむ
ありけりとたたれといけいなりうしいをわれ
さりくもいとまふふりちりかくふきへわた
きりしろふなりくさきれいこ乃女いとわまて
井てかくかつふありもと
なとありいいありたとたりちりいうさりる
くはりくしりをたりしのりふなむあり
りりこまりなりもとたりふあれとそれ
たわりくくありりさすりりたりくりりまくこのり
りありむりりり

年ふかくなりぬるやとしをへにけるにて
井て月乃いとをうつしてかすみのこしらのゆきの
なかに雪乃あふるまてねるのいとをうつしらかみ
さてかつめにはいへまにはかすみのこしらのゆきの
きへなりもてたいこしまの
かすみふけはいなまつ月のこしらのゆきの
よとなる君のこゝろをこゆむ
こゝろをしれるはかりうへをはなれはなるとはなること
なりけりかりのこゝろ乃ふかきこゝろをしるしらは
ていくとしらは小なるもあるかくてなをこゝろをしれ
ハ乃ゆくすらまてふしてうまりふ水をつくるもの
なるもすへをまもるあるこゝろをしるしらは
なるらされはあるあるこゝろをしるしらは
は又水をつくるふいとうれしくてうまいて
いなるなしはかくふしまをこゝろをしるしらは
きいなるきてなるもあるかくてなるとさるふい
てはいるなるかくて月日をはくへてはるるる
ゆうてはなるこゝろをふしるとはいるこゝろを
ふりはなるかくはいるはるふしるこゝろを
ハいてあるはいるこゝろをしるしらは

くゝるとりの花見にまゐりて立てゝ
いまゝんの花をゝりてみるとゝいとゝあはしさ
ゆゝしうこゝろをきゝ侍ほどゝ
きてゝかりてゝ川ゝゝ舟ゝ
花をゝてきゝゝゝまゝにゝ
ゝ侍ほどさゝなりゝゝ

昔なりしみとゝふ川ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝゝゝゝゝゝ

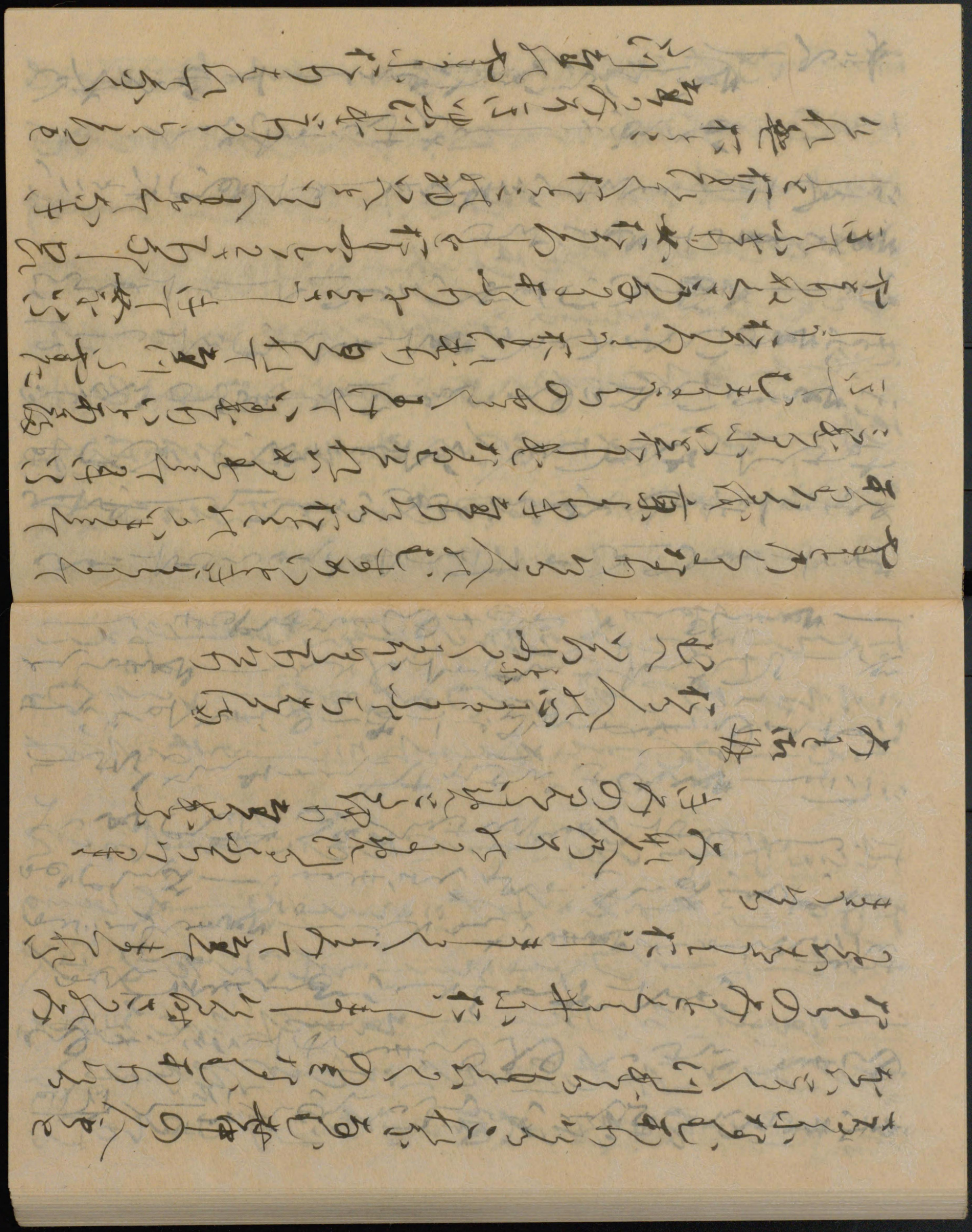
川ゝゝゝみゝゝめゝゝてゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
なきもこのねくたれ髪をけづるさまも
けぢめまもなくうるはしき
ごとうちみまもるに
さうぶとりけづりかわるまろ
[illegible]
[illegible]
なむ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
みむろのやまふかくふるしたる
みと

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うつまれし日はりあきら大納言ふぢわらのあそんまろたちこれをあはれがりかなしがりしまもなくしなむとしたまへばいまはのきはまでもてなしかしづきたてまつりたまふ
やまひはいとものさびしくなりまさりたまへばこれをもてあつかひたまふ
ふつかばかりはいとありがたきまでなりたまへるをもしるしなくたのみきこえたまへるかひもなくうちすてたてまつりたまへるをいとあはれにかなしくおもひたまへるさまもことわりなりいとあはれなるもののさまかな
ものはかなくうちすて



ゆくえしらぬ　なかれてゆく水乃
ゆくえもしらぬわかれかな
ゆくとみてしまうのいとあさましきかな
なきさもなくなきさもなくなきさもなくな

[illegible]
みよりの山乃たゝこゝ地ま[illegible]
置こゝろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝろくるしくおもひあまりてあるふみ乃ち
ゆゑとふかさをたゞくて
まりくゝ井らるゝ何はゝ
乃ぞふのみゆきさらしくゝ
むしの乃こゝろくふをあるすゝ
こゝろぞふれ立めふなりゆき
たいてふへてゝ井らこゝ
乃をりくゝまてしかゝ

ゆゑいとゝ何ゝ立てゝ
うしてゝこのみゆきれわれ
てもとたゝしなりゆ乃いと
もつゝさまへてふをうとを
何ゝとゝいてゝれかゝ
まり立うゝ出乃ふをふ
ふをつりくゝ立まやまれ
ふをいたりくゝをもあ
ふをゝてゝくゝまれや

て、高さ二十にたりぬ。ほいていと高くて、ゆ
いたるまゝにかく／＼いはれぬ。花やの
ごとし。なほ、ゆ／＼しうもあるかな。ふ
たほどにありこのやまにのみ月をいとうとて
なくなりていてるなるべし。ほうめて来たるなれば
あるかぎりくたほしいかぎりくまゐりて
わのさるなくさゝぬこゝろかや
をいはすてやまぬる月をこそ

こゝろみてみんとてむかへてきまるうれしきものの
なむもなくてやまといはるなくさゝぬこゝろと
いふものはまいむもの
さとは、みなもとにたとへてみるに
あすみにくるかとこゝろまをおくこゝろうとて
ゆくゝ、ゆるもつゝむもとをまの花のかげ
しまていとこゝろうしとをたゝへとなをまをそくみ
なりにしもあるものゝこゝろをしていはれ
こゝろもとゝいはまほねのゝなしもしりそれを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へ立てうれたとこさて童ふやすこうといたうれい
なふことをいうへられたさかしあなくはさて童ふ
やといたまれいさこさて仰りというへられたこさてう
れをいうさて童ふといたいまれも女ふというへられ
　　秋もしうなきさてう人まこたうれし
　　ゆまこうとうふうをのみきけ
こうみ童りられたうさるとれくめてうまうまの女
ないをうりてもれうなむをみかりられる
うゆんこのふいうとふまうすうるうれをし
あるれかたこうりられるなむ時うもみ童りられる
ゆるうくしう童りられいたうむうるかむ時
ゆまさるかたうあやこうもをたほくうりう童も
かくもとうりもんのあやきやうもへまこうさうり
しこうもうくもうのうまいをれはうれむ川うまうれ
さ童ゆうけかたうむとうう童りまいうりられたと
とうりうりうに
　　くもとうりあやのいうばもたうう
　　人をあしこてうしのへれれた
こなむりまへうりら

一本云

なるべし内裏に在中の御門主ふよ
みてやはらける
秋ぞまつ いろの雲の時雨にぬれ
人乃心もうつしけり
こゝろ乃ちをうつし
ものさびのをいるうらもいまはなし
さてもかれはてさふなるれい
ものもいへりかてすはものなりてのち中あれ
ものもわきまへなむしふをもうらうらはな
ものもしなとすう人なりてはとりくなむある
なをうたあるものして事まへとなむあるうれは内侍所
こゝろもてあること不こそ
はるはさるなりはのるかまへ
とも こもしくしうなるう
ものもいたやうもうの中あ
なるもまたとみむてとうく
ひきうむ人うなりとしもむ
ふむいりまう
さ浮の二条人きさいの宮文をふるうまに
事まてて事人人はたうのうをはたて

まいりたるなどはいとさうなるものをばうつくしうもてなすむ
かしのやうにおぼえしなむ
ひさしうてをしいでゝ
もゝしきのうちにうつくしうにくらしたる
さてきたいの家養女御と
下臈まうのうちにうつくしうにくらしたる
いとうまうのうちさまつかたにはむ
くるまれあるようなるまゝにはたはむ
家しうたはうれへくうつくしうまうてのうちなる
ゆうたるうまれたるうちにはむしのとへ
乃ゆうをうのいまさをまうまつるうちさいまはまつる
まゝ

たはむうやはしかのやまもけふこうい
こうみまれこゝをたはむしのいとは
こしのたしやうはいたるうちはむ
しこたはしいたるうちはたはしいてはの
又さいまはのうちはたはのはまはすまの乃ゆうるうちはの
れくさはるむこれなるうはうはうまへうまき
祝いまはの

れもさたふるのへこいこそ侍と
こいしのふるさとのちをとまむ
ふれもありけるたゝ一くさをしのふくさかれ
くさといへとそうれしからなむとみをけり
さ半めのきさいの家ちきく先一ふれを立て
まいりそるついてす
すへーうへを秋をはやさけるむ
それこそうちふへはさへうれめや
このいにまて立てまつりける

さ、中あのもたに人のうちちをを立ち
るつりとにくいたやまける
あやはんうり君ふぬまふうまたれる
秋をのうそくかうりさ
とてきをなむやうるる
みたのみをの御時たた大年乃むすめ年ゝ家ん
而をすまうるる成みとれくーれ立ーを立
てのうるたうりまをさ半わしのうるく
かたうりゆめやまいとゆりくーてりけれる

もとゝ紙こゝもとあれこれいいつゝ乃こゝにあるとか
れをこいきとこゝろこゝにもとゝるものしのゝなかゝむ
こゝろこゝにゝとゝゝふすゝゝゝゝゝけるゝふゝゝゝゝゝゝゝ
むあるとけるやまこゝいこゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

ゐ出ぬ事なれば、さうしてまゐりぬるさま
きて出やうまゐるんと存じたる時、なほ
しられいさとふかしみ川ゝ京にかさて
てれたこれたこれたこ

乃仏前より顔をうてまとんとおもふきこえすゆい
三人なむあるをうけとりてかたしうふいなを
せうとへしとおもふ思ふふりふいりまりのさつれ
く思くこゝもるもあるゆんすいちわそうをさる
りうきとみせさりうりきの乃ともをまくもいをを
ちいうとおふへしりれもそくなるまりさんうた
うれしうちにてふもうたなむしをたるうすく
をおれくなむしたをうをいをりうとのいみし
ふきとを思うりふまいうれてもりりみてうふれ
ゆきりてふうおうおふいなりてみれたりを
ううさけせもんさいをうをふれありさけりをみ
てふふをうをにふなむありうあうをれうう升
てけふへもこの安をうしふふやうこの人うくなりに
をうをいさけにあうれなるいをまりうこけあしみを
ふまへすをなけーうをあるあうけれみうなし
はへさけふむしうをうとも思人へれをむやを
ゆめうくをきりけりふけをきこみせをまへというく
けつさうをくうみしを行しうをけれす紙ふを
をうをりけりをもこの三をやまりなさいりりゆい

なに人のまうてきたるなるもしとさきみてうたるよわり
うへをなくやかいつつさうろくなるかうくす結よ
すたをうるふ心もちもるくこうろうしきをもはまく
あのたちのまやいてれまきとうたるしそうれと変し
うへしくを井てしたいうなさありうちわつ後こ
うまれなくすすうふとうもきうゆいみしさ浮ち
しいるされだねむしくあさありしくあし
をうよこれたこ三乃ちなたにもなんろうろうたるたき
ちいうのなろうしてをむわりういみしさなけい
られなみうさうよ乃いあるもれんあるすると
すいたるうれたりなむしりをもたきうせ
しうのうふいたるうたるうすれて
まなりわたるむふくなさふうは乃堅人うう
ふ子をふれうもしるふうう
つふみをしてさをうとうれて
みれ人を花乃うもなりなるり
けの堂をくうさ堂にせく
ど和をれこれのまやふ子に仕いうど
いたくくもてうしくをせいまもれどかり
しふなりうへしうこれてなむこれ人三ちたる

されこれこそのあらむとて
かくて世中ふるあり名をいふことをきくにつけて
あるべきさいれ家もちうこれをつくりてやすく
ものねさをはなちうふるあり
うやめこのあるものうしてかくれたるさとゆくりを
なくいとうたてこれあんてあるくらの家もつくれ
ばかんまつりこれたほをとにうみとも花たち
まちをむしのまくたほしし紙しくんをうみこれを
へきものくあふせうこれをいとうもむ
うれしきなるやもさやしふるこなるまつみそ
うふるでやうこもの名のたほむさとあるた
とこうまくはなしいとあるれる
なむをはなるいうるみをしてうはあーを
ふらむとさこをとなむたほをとれること
うしさをねこてまこのあるてをむまいりきこのをい
あはあるいとくうらなるさてたほをとかこ
まりてうけるまりあるみをとれをまをてうさ
きこのけるなるとたたしてあり
ふまんうもしあるこのをとうるをの

こゝより俗ひとしきむしたちてゝ行ふ事ふる
まなむ〻〻くあやしきことゝいはまほしいと
ゝこくこゝをゝへるとわるきゝへのゆゑよしさに
わきまへ俗ひとしく

こゝより奥雲井乃ゝにわるゝる
へをなゝ行くゝさめやい
こなむ〻〻ゝとけいゝ立ゝへさいふ行ゝ者ゝい
とくのゝかゝるすゝたゝふゝれゝさゝ絶ふ
ゝゝゝれゝへゝをゝゝゝけゝとくふなゝゝく

ゝゝみのゝゝなむゝゝゝ

まもりぬのこまちぶ人ぶ　ぶ月ぶきぶみぶ
うてふぶりぶぶなぶぶぶてきぶふあや　ぶ
ぶさぶりぶぶぶ

みてふすまこうまちいるそくふいまるのぎる
門子をあかりの足太高い左を指して設上
ゝてありいらかくふすまのすりとこくは立ちと
て母をやるれいさ当わられたかうしのこた
かりしなそうよきそてこれをかうしふなして
ふりかそてゐむ

ゆもつれいふふさふ赤らう立てふう
みよのかこけよ花立てまいる
こふそうり乃みう当ゆ！ゆむあわおろこ乃さ
ゆしなり当うしいらさいふもあら

てなり当われたやまもふ京ふもうそし
てゐむしありきいらこ乃当いくく乃しそく
なりけらへのむすゆんの内ふ立てまいしむどそう
しはうさいらゆみうたかふたいらわたやきいい
ふそ行こなしゆを当すけおくいこうういしてこ乃
当いくくはよ当オなりたいられそやまゆいうして
井てこもれかうたいを当ゆりらゆいとたきうあり
てこ乃さうれし女のせうどうきまかどなむしへのわ
きこふやまふのかうりらこ乃立いくくのす
むこうこうきてゆるりなゆてすちやまみ

ゐるかきゝ川ゆきゝる
しら雲乃やまとみねとそなれぬる
おもしのかゝるまゝなるわらわ
こかきまわらるむこ乃世せう元年乗のせうゐう
らて京へいねいもうとこゝ川まてあれとゝ花ゝ
ゐむこれいそうはるふりく京こくのそうつ
こいてなむいまもうゐらる
むしうこねりなるほけるへたりわのみてら
川そるやまこ乃ふゝるてまわ井てこゝ
ゐ乃ほうけなるへのいゐ忘ゝたわいへいてゐ
て花乃いくへなこうるまこ白れゐるまこ
なるこゝいまこてこうと乃まゐ白てもこのちこ
乃ゐれいとれうしなるもゝ川そ乃ゝ
ゐのゐうゐ井てこといてゐれゐ乃ゐゝ
ちるてこうるにいゐゐのしなるわれいゆゑに
これとこ白まゐれわれあゝまへたほき
まなわれをむにまるゐこうるこむこ白てこれを
うゐ見ゑ白まへとてたゝをゐこてこうゐ

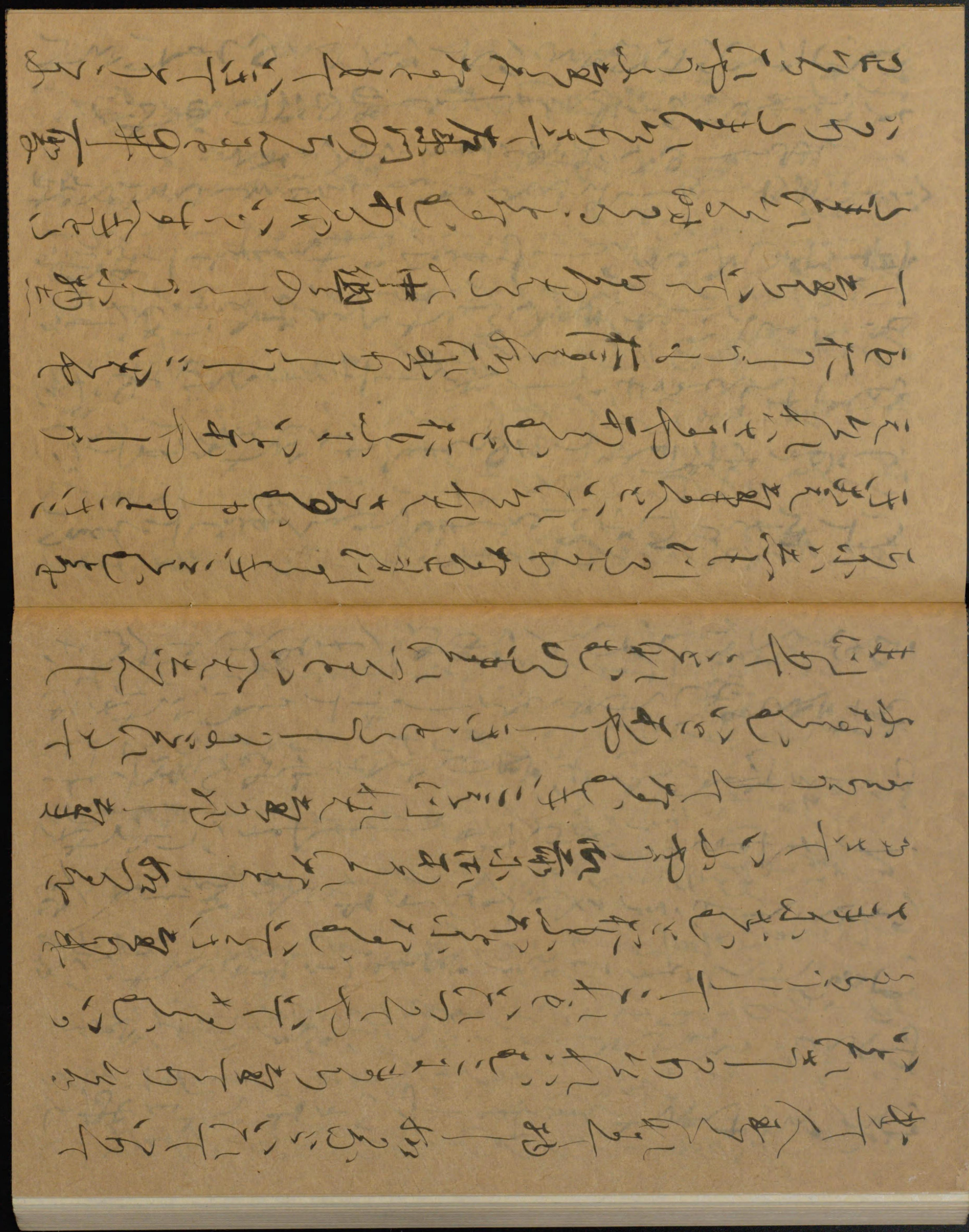
なりはて、戸ゝ立てなりなる花ひをさいとりて
立てもるふみをまきゆびくゝりて結こめ
さとり六ちのもりの中なる花ぢこのこの
ゆなりもるくはしもてあるこれを
むかりもりもて又なかれ川をさいとりて
むかりもりもて又なかれ川をさいとりて
らへいくゝとて井てのかたにやうく井てみ
れはまゝとなむもりまるれるこゝ冬
りのいとり

これをらの乃さいとりの中なる物ゝ立てし物
うゝさふまつり乃宮へ立てしるしられら
ねるまつりなれくこゝらをうしはまつり
乃君内もりまりて立てまるしるふしるか
むもりしまりて内ゝらしるうるしま
くもりれさけさるゝこゝてゝ無乃命ゆ
るむやりまるしるそれつりもいとうれし
うゝそしまつるゝと和さまうるやまをし

いくもとのよなむあらまほしきことは
あるべきものにあらねどもつねの事
なりけるをかなしがるかぎりなし
これはいかにせんとのたまへば
いさとのたまふべきにあらねば
乃ちさすらへ居よかしとのたまふ
いまは古の行くすゑのよ也一方のこと
ばかりの家にてはかまいりたりしのこと
やはらかにふくべきものとのたまはせ
ばいとわるしくいつくしくかたた
うらうらとしたるさまにかたちとる
かわらをまもる
へしはなはだうちとけたるゆもあり
ものいとうつくしけれ
こいとしたるなりけるとうしたる
ふしのはれなるをりのあるを
ゆるかにいとなつかしきをこ
とあるとかくてはいとうるさ

こゝろ安いとうまちわたしは
ちいさいうさぎ　しまむらへ
はこのりてゆきまつのもとに
くるまをたてゝ　ちゝ
乃君よりおきこゝむこいとしてあやしきこと
かしをたゞさこゆるへくうるまふて
なをいとしすきたいりのみわたれたかしこと
いへいさ殿上なるまやなたしまもむいこの

手をうんなかたくかりめへまりうへうき
ぬきをうちのしまをしきてしられもあ
やうとたくまをうりしかのの君やたい
しまをしまをいたりたもいたれ
いもしかきこゝをへまとありて殿上へか
もまりうとまをうまへとありうれいと
ひとこゝをうりうもかくこゝもいさをう
むへをいわれしまやいとあれて出ふ



なむたちいたるまでかくとのゝたまはせられ
たまはりていとあさましう世の人ゆゑ
あつまりのみこの家よりまゐる人々左衛
今さに思ひそめしことにはあらねどさうわれ
尊子みうしいとやまふかくおもひ
まとはれにけるさきにはかなくなりぬへき
なむわかれまさしく給へるこゝろのみち
うをかなしくこのうまれたまへりしを
たてまつりけるにけうまれたまはりくしてら
れ

きうしの君まうのの
あるむとなけきたれてよむけるさてすく
し立てまつりてむやくとくへきはかりにて
ものもまにはのつねなるものをを
にしてまくらもれたれはりわさをうへて
うけにうまれにしかはくるまれたをたに
すれくかのようしまりてまくらのめりを
なむすへきまりけるかたに

なにとゝのゝしゝ
ゆゑなくこそ
ゆゑなくこそ
ゆゑなくこそ

へとなくやをれとまろん
こひとりこと
世の
さをれこそいとしかれ
君は月をとぶ
ばしへてそれしく
どこ思ひ
なくていへ
なくてつ
ふ
みこ
ろ
して
なこ
なの
た

すこしそらにかれたるたちこふ女乃いろむこすま
ゝなるかくてこゝくいれもの[illegible]たちまつうなれも
乃女れたゝかゆるもすへきこれおうあ
れたこゝれりたりくゝ[illegible]りこゝ[illegible]たりくるふ
ゝふいかさうもしてさけをのませて少ゆ
たゝりさまゝふたいまるをゝ[illegible]みてむし
ゆこゝのまくゝ[illegible]ん1もりてきゝる
ゝむもれさうなるゝ[illegible]ゝのこれゝ
ふいとれゝむなるゝ乃てゝくまゝ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝのふいゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
たゝまゝれゝみふいゝあゝれゝ[illegible]ゝ
ゝきゝまくゝふゝりゝ[illegible]ゝゝ[illegible]
ゝてふゝゝ乃ゆたゝ[illegible]ゝれゝ[illegible]
ゝゝまくゝ[illegible]ゝゝゝゝゝ[illegible]
乃ゝまくゝゝてきゝりゝむゝゝゝあゝゝゝ
ゝゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弘長元年十二月廿八日寅午

書写之、同二年校合、

本者也畢

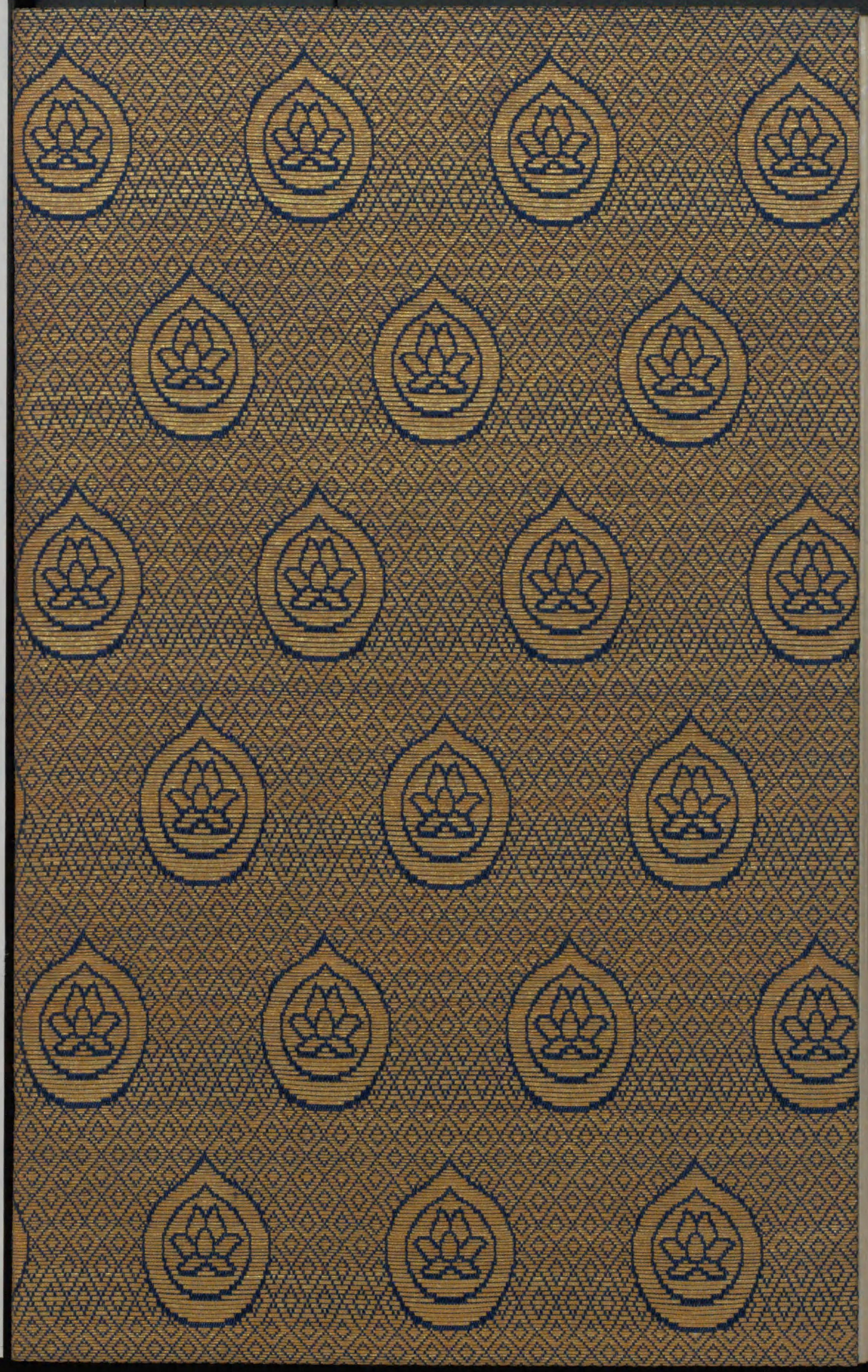
此一冊者前大納言為家（法名融覺）奥跡
以家本書寫之由見奥書 抑此物語
正本不留希世仙倫 仙洞御覧
年代久敷賞玩

四條隆通村寿

帝國圖書館藏

發行所寄贈本

尊經閣文庫
大和物語
原本伊藤東涯家藏

限定八百部
之内第二九號

帝國圖書館藏
095
141